

30 平和・国際交流施策の推進			
主管課名	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課		
主管課長名	佐々木 淳	電話番号	042-481-7541
関係課名 (組織順)	福祉総務課, 公民館, 図書館, 郷土博物館		
目的	対象	市民	
	意図	平和の尊さを理解し、後世に語り継いでいく 多様な文化が尊重される, 多文化共生を推進する	
施策の方向	市民一人一人が、国際交流を通じた相互の理解を深める中で、多様な文化が尊重され、平和に暮らすことができる共生のまちづくりを進めます。		

< 施策と関連するSDGsの目標（ゴール） >



## 1 令和元年度の振り返り — 取組実績 (DO)

施策の成果向上に向けた主な取組実績	
<p align="center"><b>施策における2つのアクション（①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信）</b></p> <p><b>(30-1 平和社会の推進)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際交流平和基金を活用し、平和に関する取組を掲載した情報紙「ピース・レターちょうふ」の発行、市内在住・在学の中学生 12 人をピースメッセンジャーとして被爆地である広島へ派遣し、その成果を広く市民へ還元する広島平和派遣事業を実施した。</li> <li>広島平和派遣事業では、派遣後に各種平和祈念事業やラグビーワールドカップ 2019 関連イベントでの発表及び市民との意見交換や、青少年ステーションCAPSでの報告会、市特別職への報告会を行ったほか、ピースメッセンジャーが制作したメッセージボードを市内公共施設等で展示し、派遣で学んだ成果の市民への還元を図った。</li> <li>そのほか、折り鶴プロジェクト、原爆展、平和フェスティバル、平和バス見学会、市民団体との共催による神田さち子ひとり芝居「帰ってきたおばあさん」の公演、郷土博物館・中央図書館での平和に関する展示、戦争体験映像等記録DVDの作製・配付など、各種平和祈念事業を実施し、戦争体験の継承や平和について考える機会の提供に努めた。</li> </ul> <p><b>①横断的連携による施策の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平和祈念事業を実施している関係部署（文化生涯学習課、福祉総務課、公民館、郷土博物館、図書館）で平和事業連絡会を2回開催し、所管する情報共有を行うとともに、事業間の連携や平和施策全体の効果的な展開に向けた協議を行った。</li> <li>平和事業連絡会における連携の成果として、「ピース・レターちょうふ」を活用して夏休み期間中に開催の平和祈念事業を巡るスタンプラリーを実施し、事業の周知、参加の促進、回遊性の向上を図った。</li> <li>広島平和派遣事業では、派遣前・派遣後の学習会において青少年の健全育成を目的としたNPO 法人との連携により、効果的な学習を行うことができた。</li> </ul> <p>■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東京2020大会関連イベントやラグビーワールドカップ2019関連イベントにおいて平和ブースを出展し、オリンピックの理念に通じる平和の尊さや大切さを考える機会を創出した。</li> <li>「ピース・レターちょうふ」を活用したスタンプラリーの参加賞として、東京2020大会記念バッジを活用し、大会の機運醸成を図った。</li> </ul> <p><b>②調布のまちの魅力発信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調布市では、昭和58年に市議会による「調布市非核平和都市宣言」、平成2年に市による「調布市国際交流平和都市宣言」を行っており、両宣言の理念に基づき、各種平和祈念事業を展開している。</li> </ul> <p><b>(30-2 国際交流と多文化共生の促進)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調布市国際交流協会（CIFA）では、定例サロンや文化交流など各種交流事業や日常生活で必要な日本語学習の機会を提供するなど外国人に対しての様々な支援と交流を行った。</li> <li>市とCIFAの共催事業として、国際理解講座や留学生との交流事業、バスツアー等を実施し、市民の国際交流及び多文化共生の促進を図った。</li> <li>国際交流平和基金を活用した小学生英語体験事業「調布でおもてなし～夏休み・小学生編～」について、CIFAと連携し、味の素スタジアム周辺における道案内を学ぶなど、より実践的な内容で実施した。</li> <li>ホストタウンであるサウジアラビア王国との交流として、アラブイスラーム学院訪問やアラビア語講座、サウジアラビア文化展・講演会等を実施し、市民がアラビア文化に触れる機会を創出し、交流の発展につなげた。</li> </ul>	

**①横断的連携による施策の推進**

- ・CIFA、東京都、市防災部門の連携により、武蔵野の森総合スポーツプラザで開催された「外国人のための防災訓練」や「調布市防災ガイド～やさしい日本語版」の作成を通じて、災害弱者である外国人支援に取り組んだ。
- ・CIFAと東京都との共催により、外国人が安心して過ごせる環境づくりとして、「外国人おもてなし語学ボランティア」を育成する講座を実施した。

**■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」**

- ・CIFAでは、2019年・2020年来日する外国人を調布の地でおもてなしできるように、若い世代（中高生）が実践の場で使える英語を学び外国人と交流する講座「調布でおもてなし～夏休み・中高生編～」を開催したほか、一般市民が母語である日本語によるおもてなしを目指す「やさしい日本語」についての講演・ワークショップを実施した。
- ・ラグビーワールドカップ2019開催期間中に、調布駅前で開催した「スクラムフェスティバル」において、CIFAのPRブースを設け、外国人向けのパンフレット等の展示、配布を行うとともに、「調布でおもてなし講座」等に参加した小中高生による外国人への英語インタビューを行った。
- ・東京2020大会（オリンピック）1年前イベント「サマーフェスティバル2019」・ラグビーワールドカップ2019開催期間中の「スクラムフェスティバル」に、サウジアラビア文化を紹介するブースを出展、サウジアラビアからの留学生が参加し、市民や来場者との交流を図った。

**②調布のまちの魅力発信**

- ・2002年サッカーワールドカップ日韓大会以降、様々な事業・イベントを通じてサウジアラビア王国との交流を継続し、東京2020大会に向け調布市が同国のホストタウンとして承認され、交流をさらに発展させている。

**<令和元年度における施策の成果についての総括>**

- ・平和施策については、「調布市非核平和都市宣言」及び「調布市国際交流平和都市宣言」の理念に基づき、庁内関係部署や市民団体等が連携しながら、各種平和祈念事業を展開し、市民に平和について考える機会を提供した。
- ・基本計画に継続事業として位置付けた被爆地への平和派遣事業では、派遣後その成果について、各種平和祈念事業等での発表・市民との意見交換、青少年ステーションCAPSでの報告会、メッセージボードの市内公共施設等での展示、報告書の作成等を通じて、広く市民への還元を図った。
- ・国際交流施策については、調布市国際交流協会（CIFA）との連携により、各種交流事業や日本語学習の機会の提供などの外国人支援を行ったほか、国際理解講座や留学生との交流事業、バスツアー等を実施し、市民の国際交流及び多文化共生の促進を図った。
- ・ラグビーワールドカップ2019及び東京2020大会に向けては、小学生英語体験事業「調布でおもてなし～夏休み・小学生編～」や「調布でおもてなし～夏休み・中高生編～」や「やさしい日本語」についての講演・ワークショップなどの実施により、来日する外国人を調布の地でおもてなしできるように人材育成を図った。
- ・ホストタウンであるサウジアラビア王国との交流では、アラブイスラーム学院訪問やアラビア語講座、サウジアラビア文化展・講演会等を実施するとともに、「サマーフェスティバル2019」「スクラムフェスティバル」に留学生が参加するなど、市民がアラビア文化に触れる機会を創出し、交流の発展につなげた。

まちづくり指標 【☆：基本計画におけるまちづくり指標、◎：総合戦略における指標】		基準値 (基準年度)	単位	実績値 令和元年度	目標値 令和4年度
1	戦争についての話をしたり、聞いたりしたことがある市民の割合【☆】	84.9 (H30)	%	83.6	90.0
2	国際交流・多文化共生事業の参加者数【☆】	2,482 (H29)	人	2,986	3,000

【備考】国際交流・多文化共生事業の参加者数（内訳）アラブ・イスラーム学院訪問 55 人、アラビア語講座 133 人、サウジアラビア文化展（展示）783 人（講演会）112 人（調理体験）15 人、CIFA（広報事業）120 人（交流事業）777 人（日本語教室）589 人（多文化共生事業）127 人（オリパラ関連事業）275 人

**2 令和元年度の振り返り — 評価 (CHECK)**

総合評価	A	<p>S：「顕著な取組成果が得られた。計画以上に目標を達成した。」</p> <p>A：「予定した取組成果が得られた。計画どおりに目標を達成した。」</p> <p>B：「一定程度の取組成果が得られた。概ね計画どおりに目標を達成した。」</p> <p>C：「予定した取組成果が得られなかった。目標達成にはやや至らなかった。」</p> <p>D：「取組成果が得られなかった。目標達成までには至らなかった。」</p>
理由	<p>・戦争についての話をしたり、聞いたりしたことがある市民の割合は、目標には至らなかったものの、広島平和派遣事業をはじめ各種平和祈念事業の実施により、市民に平和の尊さや大切さについて考える機会を創出するなど、市が目指す施策の方向に向けて一定の成果を上げているため。</p> <p>・国際交流と多文化共生の地域づくりの促進に向け、調布市国際交流協会（CIFA）との連携事業や、サウジアラビア王国との連携事業など、様々な国際交流・多文化共生事業を展開したことにより、目標達成に向けて、一定の成果が得られたため。</p>	

### 3 施策の方向 — (ACTION)

区分	今後の取組の方向 ★：重点プロジェクトに関連する取組，●：新規の取組，○：拡充の検討を要する取組
令和2年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後 75 年、「調布市国際交流平和都市宣言」30 周年の節目の年として、広く市民が平和の尊さについて考える機会を提供するため、様々な平和事業を展開</li> <li>○戦争の悲惨さや平和の尊さを次世代へ伝えていくため、市民団体や民間事業者と連携した平和祈念事業を開催</li> <li>・世界の様々な文化や人々との相互の認識と理解を深め、共に暮らしていける地域社会づくりを進めるため、国際交流協会との連携事業やホストタウンとなっているサウジアラビアとの交流事業を推進</li> <li>○「調布市国際交流平和都市宣言」30 周年として、調布市国際交流協会との連携による宣言及び「国際交流平和基金」の普及啓発</li> </ul>
新型コロナウイルス感染症の影響に伴う対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広島平和派遣事業について、学習会や派遣後の市のイベント等における成果発表など中学生の学外活動の時間を一定程度要することから、今年度の実施を見送り</li> <li>・日本語学習支援など外国人支援事業等において ICT の導入の検討</li> </ul>
東京 2020 大会開催延期に伴う対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京 2020 大会期間中に開催を予定していたサウジアラビア文化展の中止</li> <li>・参加者が東京 2020 大会期間中に活動することを目的に小学校の夏季休暇中に実施を予定していた小学生英語体験事業の延期</li> </ul>
台風への対応を踏まえた災害対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都、国際交流協会、市防災部門等との連携による災害時における外国人対応の検討</li> </ul>
令和3年度以降の計画期間内の取組 (令和2年度から継続する取組を除く)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●長崎へのピースメッセンジャーの派遣の検討、長崎市との更なる平和交流の推進</li> <li>●調布市国際交流協会と連携した外国人相談会の実施の検討</li> </ul>

### 30 平和・国際交流施策の推進

No.	事務事業名	重点プロジェクト事業	総合戦略	所管部署	事務事業の概要
1	平和祈念事業の実施			文化生涯学習課	「調布市非核平和都市宣言」（昭和58年9月27日 調布市議会）及び「調布市国際交流平和都市宣言」（平成2年3月23日 調布市）の理念に基づき、平和と人権の尊重を基本として、戦争の記憶を風化させることがないよう、様々な差異を超えて共に生きることをテーマとして、平和に関する意識を啓発するための各種平和事業を実施する。 市は、平成22年8月1日に平和市長会議（現在の平和首長会議）に加盟している。 他の平和施策と連携を図ることにより、被爆地への平和派遣事業の成果を広く市民へ還元する。
2	国際交流の促進			文化生涯学習課	多様な文化への理解を深め、市民の国際感覚の醸成に寄与するための事業等の実施を通じて、国際交流と多文化共生の地域づくりを促進していく。 ①草の根の国際交流を進める国際交流協会の活動を支援するとともに、国際交流協会と連携し国際理解のための文化交流事業等を行う。 ②東京2020大会開催に向けて、英語を活用して来日する外国人と交流できることを目的として、小学生英語体験事業を行う。 ③東京2020大会において市がホストタウンとなっているサウジアラビア王国について、魅力発信や市民が交流できる機会を提供するとともに市民団体等と連携した取組を行う。

30 平和・国際交流施策の推進

※各事務事業の概要については、巻末の「⑦事務事業概要一覧」をご参照ください。

No.	事務事業名	重点プロジェクト事業	総合戦略	所管部署	R1 決算事業費(千円)	令和元年度の取組実績	実績評価	進捗状況・今後の取組の方向性								
								R1 取組実績			方向性					今後の取組内容 (新型コロナウイルス感染症の影響に関する内容は冒頭に◆印を記載しています)
								計画前倒し	計画どおり	計画遅れ	有効性改善	効率性改善	財政面改善	参加と協働改善	改善余地なし	
1	平和祈念事業の実施			文化生涯学習課	3,272	中学生広島平和派遣を実施し(参加者数:12人)、平和祈念関連の様々な事業や、ラグビーワールドカップ開催にあわせて開催されたスクラムフェスティバル等の機会を捉え、派遣者の制作物の展示や、来場者との意見交換を行うなど成果を広く還元した。あわせて、市民から折り鶴を募集し広島市へ献納する折り鶴プロジェクトを実施した(献納数:2万2080羽)ほか、被爆に関する資料や写真パネル等を展示する原爆展を実施した(来場者数:761人)。市内で行われる平和祈念事業をPRするため、平和祈念情報誌「ピース・レターちょうふ」を更新し、市立小・中学校の児童・生徒に配布するとともに、公共施設に配架した(発行部数:1万7000部)。また、スタンブラリーを活用し、夏の平和事業への参加者の増加に努めた。その他、戦争体験映像記録DVDの作成や、市民団体との共催イベントを行うことなどを通して、市民の平和に対する意識啓発に繋げた。	◎		●		●					戦争体験者が減少していく中、戦争の悲惨さや平和の尊さを次の世代へ伝えていくため、市民の協力による映像記録の制作や展示などを継続的に実施していく。若い世代における効果的・効率的な啓発及び平和祈念事業への参加促進が課題であることから、ピースレター等を活用し、市内の平和祈念事業の関連情報を分かりやすく発信していく。平和祈念事業の実施に当たっては、平和事業連絡会を活用しながら、市内横断的な事業展開について検討を行う。また、令和2年度は戦後75年を迎えるとともに、調布市国際交流平和都市宣言30周年の節目となる年であることから、国際交流平和基金を活用し、国際交流協会とも連携を図りながら、幅広い世代が平和の尊さ、命の大切さを考える機会となる事業を実施する。 ◆新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、令和2年度は広島平和派遣事業を中止としたため、令和元年度派遣者の学びの成果を広く周知し、平和への想いを伝えていく。
2	国際交流の促進			文化生涯学習課	22,558	調布市国際交流協会において日本語学習支援や文化交流事業等を実施するほか、国際理解講座や留学生との交流事業を共催し、市民の国際交流及び多文化共生を推進した。小学生英語体験事業は、市内の競技会場まで実際に歩いて道案内を学ぶなど、東京2020大会に向け実践的な内容として実施した。さらに、ラグビーワールドカップ2019の開催期間中に行われたスクラムフェスティバルVOL.6において、調布駅前国際交流協会のPRブースを設けたほか、来訪した外国人に対し英語体験事業に参加した子どもたちが街頭インタビューを行い、実践演習の場をつくることができた。また、東京都との共催による語学ボランティア育成講座を実施した。ホストタウンであるサウジアラビア王国については、アラブ・イスラム学院訪問事業やアラビア語講座、サウジアラビア文化展・講演会等を通して、市民がアラビア文化に触れる機会を設け、交流を発展させることができた。	◎		●		●	●				今後も関係機関や市民団体等と連携・協力しながら、外国人の生活支援や日本人との交流・共生を深めるため、国際交流や国際理解につながる事業に取り組み、多文化共生の地域づくりを推進していく。また、令和2年度は国際交流平和都市宣言30周年の年として、宣言の普及啓発を図る。 ◆新型コロナウイルス感染症の影響により、東京2020大会の開催期間に合わせた開催を予定していたサウジアラビア文化展は延期とし、今後の状況にあわせて適切かつ効果・効率的なサウジアラビア王国のPRを図る。また、小学生英語体験事業は、東京2020大会開催時における子どもたちの活躍を見据え、実施時期及び内容を見直す。その他、調布市国際交流協会と連携し、日本語学習支援をはじめとする外国人支援事業等においてICTを取り入れるなど、新たな取組を検討しながら、各種国際交流事業を推進する。
								0	2	0	2	1	0	0	0	計
								0.0	100.0	0.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	割合(%)

当該施策に体系付けられている全ての事務事業については、巻末に掲載している参考資料「⑥事務事業一覧(施策体系順)」をご参照ください。